

各日常生活圏域からの検討課題について

今後の生活支援サービスに繋げるにあたり取り組むこと ＜マッチングができるように＞	意見交換内容の抜粋	・取り組む 進捗(優先的か) ・手法等
担い手を探すには？ ○担い手となれる人を探すために、どこで声を掛けていくか ○若い世代は、どこで探すか。 ○市認定ヘルパー・シニアサポーター養成講座受講者との連携	○子育て世代へのアンケート結果 ・子供が幼稚園等に行っている間の短時間で家事的な支援は可能 ・少額の報酬がある方が支援しやすい ○養成講座受講修了者と、第2層生活支援コーディネーターとの交流	
実際の高齢者のニーズとは？地域で気軽に利用するためには？ ＜小単位での地域の高齢者の実際の声はどうか＞ ○ニーズ分析は必要か ○どんな人の声を聞いていくか ○地域での生活支援を利用できるようにしていくためには、どのような意識づけ等が必要か	○地域のお互い様でのサービス利用等に、まだ馴染めていない。近所の人に、手助けを頼むことに遠慮がある。	
資源マップ 市全域の資源がわかるようなものを作成するのはどうか。 ○まだ把握しきれていない資源はどう探るか ○どんな情報が有効か・どんな情報を求められているか(便利か) ○世代を超えた情報とは ○資源のまとめは、どう進めるか ○他の圏域との連携、情報共有(共通事項)は何か必要か	○第2層(日常生活圏域)協議体において、協議内容のテーマに沿って、資源の内容を定めて、マップの作製を手掛けている。 ・サロン実施場所 ・買い物に関する資源 等 ○市全域の多様な資源を標記したマップは無い	